

りれいしよん

メンタルヘルスだより

第6号

発行日/平成15年10月

三重県精神保健福祉協議会

●事務局

〒514-8570

三重県津市広明町13

三重県障害福祉チーム内

TEL059-224-2273

FAX059-228-2085



三重県初の精神障害者の方のバレーボール大会が開催されました。



熱戦がくりひろげられました。



詳しくは、三重県大会のページをご覧ください。

●第6号の内容●

地域生活支援センターって？	2
精神障害者バレーボール大会レポート	4
精神障害者三重県大会案内	6
H14年度決算・H15年度予算	7
リラックス、新委員紹介	8

地域生活支援センターって？

今回は、県内5カ所にある地域生活支援センターの紹介をさせていただきます。

地域生活支援センター

地域に暮らす精神障害者からの相談に応じ、必要な指導及び助言を行うとともに、社会復帰施設・居宅生活支援事業等の利用ができるよう助言を行います。また、保健所や福祉事務所、精神障害者社会復帰施設等との連絡調整など、総合的に援助する役割をもっています。具体的には以下のセンターで、経済問題、病気、就労、住居、人間関係、家族等に関する相談に応じてもらっています。

HANA

四日市市日永 4-4-9
Tel.0593-49-1950

登録者数：250名

特色：生活する上で困難を抱えている方であれば、障害の種別に関わらず対応します。就労支援に力を入れ、地域交流を大切にしています。

抱負：地域から「HANAがあって良かった」と思われるようなセンターを目指します。

また、精神病の理解を促し、予防につなげられるような活動を目指します。



アンダンテ

津市城山 1丁目 8-16
Tel.059-238-0303

登録者数：61名

特色：生活の質を高める一助として、毎金曜日に午後にはクラブ活動、サークル活動を隔週で行っています。クラブ活動はホームシアター、カラオケ、絵手紙、習字、スポーツ、絵画があります。昼食サービスは調理実習の場として、希望者が一緒に調理します。また、当事者会（リラックス）、家族会（こもれび）を支援しています。

抱負：癒しの空間、ほっとできる場づくりを目指して、部屋には音楽が流れ、中庭にはガーデニングによる四季の花を咲かせます。相談業務は、地域ネットワークによる支援体制作りを目指します。「リラックス」がセルフヘルプグループに成長するよう支援します。地域で暮らすための生活相談・支援にホームヘルプを導入します。地域交流のイベントを行い、地域啓発教育に努めます。



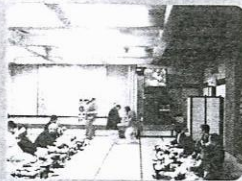
アジサイ

員弁郡北勢町大字其原字楚里 1953
Tel.0594-72-6768

登録者：176名

特色：毎月カラーの機関誌「でんでん」「ミニでんでん」を発刊しています。また、当事者中心のセルフヘルプグループや県桑名庁舎において開催しているフリースペース（サテライト ホワイタイム）を支援しています。定期的に市町村に訪問し、地域に顔見えるセンターです。

抱負：北勢病院と連携して、退院促進事業のようなことを試験的に行っていきます。これを機に今後力を入れていく予定です。



ソシオ

四日市市日永 5039
Tel.0593-45-9016

登録者数：148名

特色：フリースペースを利用して、クラブ活動として伊勢型紙を行っています。その他、習字、卓球などがあります。また、利用者用のパソコンがあり、インターネットの閲覧もできます。初心者の方のためのパソコン教室も開催しています。概ね月に1回、地域の公共施設を利用する行事を行っています。（美術館や博物館見学など）

抱負：「今よりもっと良い生活に向けて」をモットーに、利用者の方々がその人らしい生活を築いていけるよう支援しています。今後は、登録者の半数近くを占める単身者（施設入所者含む）の方々への生活支援に力を入れていきたいと考えています。



こだま

松阪市下村町字寛部 2203-1
Tel.0598-20-1213

登録者数：66名

特色：松阪市以南の地域を対象とし、電話、面談での相談業務を行っていますが、特に市町村及び関係機関との連携を深め、利用者の方が地域の中で安心して暮らしていける様、訪問による支援活動に力を入れています。

抱負：地域に根ざした、地域と共に歩むセンターを目指しています。利用者の方が利用しやすい環境、そして雰囲気づくりを大切に、幅広い情報提供、場の提供の充実、地域交流活動の促進等に今後力を入れ、利用者の方々のニーズに対応できるセンターを目指し、活動していきます。



精神障害者バレーボール大会レポート

去る平成15年7月26日、三重県総合競技場・体育館において三重県精神障害者家族会連合会主催の第1回精神障害者バレーボール大会が開催されました。この大会は第1回三重県障害者スポーツ大会・ふれあいスポレク祭のオープン競技でもありました。当日は、選手、役員、応援等300名あまりの参加があり、熱気にあふれた試合が繰り広げられました。そのもようをここに紹介させていただきます。



参加チーム

北勢会
わかば共同作業所
フェアワークス下野
四季の里
水沢病院
鈴鹿保健福祉部デイクア
鈴鹿厚生病院
愛恵会
南勢志摩保健福祉部デイクア
以上9チーム



ふれあいスポレク祭実行委員会・幹事委員 下方宏明氏（地域生活支援センター ソシオ）

去る平成15年7月26日に、三重県障害者スポーツ大会のオープン競技・精神障害者ソフトバレーボール大会が伊勢市内にある県営体育館にて実施されました。この行事は、三重県障害者スポーツ大会で初めての試みだったのです。

毎年開催される三重県障害者スポーツ大会は、全国障害者スポーツ大会の予選も兼ねて行われているのですが、全国大会の参加対象は、身体障害者と知的障害者のみで、精神障害者は対象になっていません。これに準ずる形で開催されてきた三重県大会も同様に身体障害者、知的障害者のみが対象でしたが平成14年度から精神障害者への参加の枠を広げ、三障害合同で行うことになりました。一歩前進といったところですが、精神障害者の方が県大会で好成績を残しても全国大会へ出場するといった目標をもてないことが課題となっていました。

これに対して、全国障害者スポーツ大会が三障害合同となることを求めて、(社)日本精神保健福祉連盟が全国障害者スポーツ大会を実施していますが、この大会の種目にソフトバレーボールが採用されています。三重県障害者スポーツ大会の実行委員会でも、精神障害者も全国大会出場への道筋をつくりたいとの思いで検討した結果、今年度から三重県障害者スポーツ大会・ふれあいスポレク祭のオープン競技として精神障害者ソフトバレーボールが採用され、全国大会出場予選を兼ねて今回の大会実現に至ったわけです。

今回は、北勢会、わかば共同作業所、フェアワークス下野、四季の里、水沢病院、鈴鹿保健福祉部、鈴鹿厚生病院、愛恵会、南勢志摩保健福祉部の9チームの出場があり、活気ある試合が展開されました。結果はご存知の通り、愛恵会チームが優勝となり、静岡で開催される全国大会に出場される予定です。大会に出場された皆様、本当にいい試合でした。有り難うございました。

また全国に先駆けてこの事業を認めて頂いた関係者の皆様に心より感謝いたします。



入賞チーム紹介

優勝 愛恵会
準優勝 水沢病院
3位 鈴鹿厚生病院

おめでとうございます。
他の6チームもお疲れさまでした。
次回 期待しています。



優勝チームの声 愛恵会チーム選手のみなさん

- ・ とても緊張したが、楽しかった。
- ・ 参加してみても良かった。
- ・ 優勝できて本当に嬉しかった。
- ・ 自信がついた。
- ・ 全国大会もがんばりたい。
- ・ みんなが一つになれば、やればできると思った。

優勝チームの感想

愛恵会チーム監督 梶川 淳氏（地域生活支援センター こだま）

感動しました。この一言につきます。優勝の喜びの余韻は大会後も、しばらく続きました。チーム結成当初は、ルールもわからず、柔らかなボールに苦労しましたがこつこつとみんなで考えながら練習を重ねました。おかげでチームプレーもできるようになり、少しずつ自信をつけていく事ができました。本番では、進んで声を出し、円陣を組むメンバーをみて頼もしく感じました。今回の経験は、自分たち内にある力、可能性を強く実感することができ、大会にいたるまでの過程を通し、メンバー、職員共に一つ成長できた思い出の大会となりました。

優勝されました愛恵会の皆さんは、来る11月9日（日）に静岡市において開催されます全国大会に、三重県代表として出場されます。
～みんなで応援しています。楽しんでください。～



残念でしたあ～

借しくも入賞を逃したチーム代表

鈴鹿保健福祉部デイクア「コスモス」参加メンバーの声

この大会の前に開催されたボランティア主催のプレバレーボール大会では、優勝できたので、今回も「優勝するぞー!」と思っていました。なので、結果は残念ですが、とっても楽しんでゲームすることができ、また、チームワークの大切さを感じました。今度は、10月17日に開かれる北勢地域のバレーボール大会での優勝を目指してがんばります。

三重県精神障害者家族会連合会事務局長

一の宮照長氏

精神障害者の福祉改善活動に、社会の理解を頂くため、スポーツのもつイメージで、ともしれば泳みかちになる活動に明るさを加えるとともに、リハビリの域をこえて社会にアピールして行くために本大会の継続に努力します。

精神保健福祉協議会三重県大会



開催日時 平成15年11月20日(木)
13:30~16:00

開催場所 三重県男女共同参画センター
多目的ホール
(津市上津部田1234)

参加費 無料

プログラム 表彰式 13:30~14:00
映画上演と講演会 14:00~16:00
・映画「home」(約1時間)
・講演会
「ひきこもりについて一緒に考えてみませんか?」
監督:小林貴裕氏(弟)
主人公:小林博和氏(兄)

共催 三重県精神保健福祉協議会・三重県こころの健康センター

問い合わせ先 三重県精神保健福祉協議会 事務局
(三重県健康福祉部障害福祉チーム内)
Tel.059-224-2273 Fax.059-228-2085

全国には社会的ひきこもりの状態といわれる人が100万人いると言われていますが、ひきこもりからの脱出にはさまざまな困難が伴い、長期に及ぶ傾向があります。

そこで、今回、映画「home」の上映及び講演会によって、このような状態にいる家族に社会に出る勇気を見いだす一歩となることを願うとともに、社会としてどうサポートしていくべきか考えるきっかけになればと思います、上記の映画を上映します。

また、当日は、映画監督の小林貴裕氏、主人公の小林博和氏も来場し、お話を伺う予定にしています。これを機会に、「ひきこもり」について一緒に考えてみませんか?



監督:小林貴裕氏

映画「home」とは

7年間ひきこもっている兄、そんな兄を抱え苦しんでいるうづの母がいる家に、弟がカメラを持って帰ってくるころから始まります。弟は、自分が逃げてきた家族の、切迫した状況を目の当たりにし、たった一台のカメラを支えに家族と向き合おうと動き出します。この映画はひきこもっていた兄が、家を出るまでの壮絶な闘いを追ったものです。

「ひきこもってもいいんだよ。ちょっと遠回りするだけだから。」

こう思えるようになるまで長い年月が必要だった。…祖母の病気をきっかけに5年ぶりに田舎に帰り、何ヶ月もひきこもっている兄と向き合い続け、考えを改めるようになった。本人が一番この状況を脱したい。もがき苦しみ、誰かに今の自分の苦しみをわかってほしいのだと。

「監督からのメッセージ」より

平成14年度事業報告

- 1・理事会の開催**
第1回 平成14年6月21日(金) 場所:勤労者福祉会館
第2回 平成14年11月18日(月) 場所:三重県津庁舎
- 2・定期総会の開催**
平成14年11月18日(月) 三重県津庁舎
- 3・第35回精神保健福祉三重県大会の開催**
平成14年11月18日(月) 三重県津庁舎
内容:
1) 精神保健福祉協議会長表彰
2) アトラクション~小規模作業所等による歌
特別講演「障害者があたりまえに生活するために」
社会福祉法人 一妻会 専務理事 田中秀樹 先生
*その他~小規模作業所等の作品展示即売会も同時開催
参加者:450名(H12年度~360名)
- 4・メンタルヘルスだより「りれいしょん」の発行**
年2回、各13,200部
・メンタルヘルス編集委員会の開催 年4回
- 5・平成14年度地域精神保健福祉研修会の開催**
日時:平成15年2月19日(火)
場所:県総合文化センター
内容:講演「境界例への援助」
講師(前)福山女学園大学 人間関係学部 成田善弘先生
- 6・会員の加入促進**
個人会員:536

平成14年度決算

1 収入		(単位:円)	
科目	14年度決算額	摘要	
1 会費	1,405,790	個人536、団体67(津11、郡野56)、特別48	
2 補助金	0		
3 協賛金	0		
4 雑収入	12	預金利息	
5 繰越金	229,846		
合計	1,635,548		
2 支出			
科目	14年度決算額	摘要	
1 事務費	7,137		
旅費	0		
消耗品費	312	印刷代	
食糧費	0		
通信運搬費	0		
手数料	6,825	振り込み手数料	
2 事業費	1,081,927		
会議費	75,845		
旅費	33,120	理事会旅費	
印刷製本費	0		
食糧費	35,175	理事会コーヒー代等	
通信運搬費	0		
会場借上費	7,550	第1回理事会会場	
大会費	403,934		
旅費	0		
消耗品費	5,552	チラシ用紙、フィルム等	
印刷製本費	178,000	大会冊子、ポスター等	
食糧費	15,268	スタッフ昼食代	
謝礼	70,000	大会講師、アトラクション出演	
表彰費	87,717	花束、記念品、表彰状等	
会場設置費	47,197	看板作成、設置等	
会場借上費	0		
通信運搬費	200	大会案内状郵送料	
印刷製本費	602,148		
旅費	27,930	りれいしょん委員旅費	
消耗品費	7,300		
印刷製本費	301,355	りれいしょん印刷(4.5冊)	
食糧費	6,200	りれいしょん委員コーヒー代等	
謝礼	155,000	研修会講師代、りれいしょんお礼等	
書籍購入費	0		
会場借上費	0		
通信運搬費	104,353	りれいしょん送料等	
3 対策費	200,000		
指導費成費	200,000	三重連・新酒会への助成	
4 分担費	35,000		
分担金	35,000	全国連絡協議会会費等	
5 予備費	0		
予備費	0		
合計	1,324,064		

団体会員:67(市11、町村56)
特別会員:48 合計651

7・関係団体の育成
三重県断酒新生活会、三重県精神障害者家族会連合会への援助

平成15年度事業計画

- 1・理事会の開催**
第1回平成15年6月16日(月) 吉田山会館
第2回平成15年11月20日(木) 三重県総合文化センター
- 2・定期総会の開催**
平成15年11月20日(木) 三重県総合文化センター
- 3・第36回精神保健福祉三重県大会**
平成15年11月20日(木) 三重県総合文化センター
- 4・メンタルヘルスだより「りれいしょん」の発行**
年2回発行
- 5・研修・講習会等の開催**
平成15年11月20日(木) 三重県総合文化センター
三重県こころの健康センターとの共催
- 6・三重県精神保健福祉協議会長表彰**
精神保健福祉に功勞された個人、団体を表彰する
- 7・関係団体の育成**
三重断酒会新生活会、三重県精神障害者家族連合会
- 8・会員の加入促進**
本協議会の趣旨のより一層の徹底と財源確保のため、会員加入の促進を図る。

平成15年度予算

1 収入		(単位:円)	
科目	15年度予算額	摘要	
1 会費	1,400,000	個人532、団体67(津11、郡野56)、特別48	
2 補助金	0		
3 協賛金	0		
4 雑収入	10	預金利息	
5 繰越金	311,584		
合計	1,711,584		
2 支出			
科目	15年度予算額	摘要	
1 事務費	13,000		
旅費	0		
消耗品費	1,000		
食糧費	0		
通信運搬費	2,000		
手数料	10,000		
2 事業費	1,452,000		
会議費	100,000		
旅費	40,000	理事会旅費	
印刷製本費	5,000		
食糧費	40,000	理事会コーヒー代等	
通信運搬費	5,000		
会場借上費	10,000	総合文化センター	
大会費	780,000		
旅費	0		
消耗品費	10,000		
印刷製本費	250,000	大会ポスター、講演会ちらし等	
食糧費	20,000	大会弁当代	
謝礼	250,000	ビデオ上映にかかるもの	
表彰費	100,000	表彰記念品、表彰状代等	
会場設置費	100,000	施設器具使用料等	
会場借上費	40,000	総合文化センター	
通信運搬費	10,000	ビデオ等郵送料	
印刷製本費	572,000		
旅費	40,000	りれいしょん委員旅費	
消耗品費	2,000		
印刷製本費	300,000	りれいしょん印刷(13,000部印刷)	
食糧費	10,000		
謝礼	50,000	りれいしょん等にかかるもの	
書籍購入費	10,000		
会場借上費	0		
通信運搬費	160,000	りれいしょん送料等	
3 対策費	200,000		
指導費成費	200,000	三重連・新酒会への助成	
4 分担費	35,000		
分担金	35,000	全国連絡協議会会費等	
5 予備費	11,584		
予備費	11,584		
合計	1,711,584		

精神保健福祉協議会三重県大会

- 開催日時** 平成 15 年 11 月 20 日 (木)
13:30~16:00
- 開催場所** 三重県男女共同参画センター
多目的ホール
(津市上津部田 1234)
- 参加費** 無料
- プログラム** 表彰式 13:30~14:00
映画上演と講演会 14:00~16:00
・映画「home」(約1時間)
・講演会



「ひきこもりについて一緒に考えてみませんか？」

監督：小林貴裕氏(弟)

主人公：小林博和氏(兄)

共催 三重県精神保健福祉協議会・三重県こころの健康センター

問い合わせ先 三重県精神保健福祉協議会 事務局
(三重県健康福祉部障害福祉チーム内)
Tel.059-224-2273 Fax.059-228-2085

全国には社会的ひきこもりの状態といわれる人が100万人いると言われていますが、ひきこもりからの脱出にはさまざまな困難が伴い、長期に及び傾向があります。

そこで、今回、映画「home」の上映及び講演会によって、このような状態にいる家族に社会に出る勇気を見いだす一歩となることを願うとともに、社会としてどうサポートしていくべきか考えるきっかけになればと思い、上記の映画を上映します。

また、当日は、映画監督の小林貴裕氏、主人公の小林博和氏も来場し、お話を伺う予定にしています。これを機会に、「ひきこもり」について一緒に考えてみませんか？



監督：小林貴裕氏

映画「home」とは

7年間ひきこもっている兄、そんな兄を抱え苦しんでいるうつ病の母がいる家に、弟がカメラを持って帰ってくるところから始まります。弟は、自分が逃げてきた家族の、切迫した状況を目の当たりにし、たった一台のカメラを支えに家族と向き合おうと動き出します。この映画はひきこもっていた兄が、家を出るまでの壮絶な闘いを追ったものです。

「ひきこもってもいいんだよ。ちょっと遠回りするだけだから。」

こう思えるようになるまで長い年月が必要だった。…

…祖母の病気をきっかけに5年ぶりに田舎に帰り、何ヶ月もひきこもっている兄と向き合い続け、考えを改めるようになった。本人が一番この状況を脱したい。もがき苦しみ、誰かに今の自分の苦しみをわかってほしいのだと。

「監督からのメッセージ」より